

# 東大阪市教育委員会令和6年8月定例会

- 1 日時 令和6年8月19日(月)  
開会 午後2時00分  
閉会 午後2時45分

- 2 場所 市庁舎18階 会議室1及び会議室2

- 3 出席者 (委員)

教育長	古川 聖登
教育長職務代理者	秦 卓宏
委員	堤 晶子
委員	山中 雅仁
委員	田中 宏一

- (出席説明員)

教育次長	森田 好一
教育次長	永吉 勝則
学校教育部長	太田 恭子
社会教育部長	早崎 順一
教育政策室長	西田 幸史
学校教育推進室長	中 渕 一 博
学校教育推進室参事	吉本 博明

#### 4 議事

##### 【古川教育長】

ただ今から、東大阪市教育委員会令和6年8月定例会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は山中委員にお願いいたします。

8月定例会開催にあたり、私から一言御挨拶をさせていただきます。

今年、年頭の能登半島地震から始まり、全国各地で例年以上の地震があり、我が国初の巨大地震注意も発令されました。この注意は8月16日に解除されましたが、今後も発生に備えるべきとされています。個人が災害に備えるとともに、市としても、学校施設などの避難所の開設をはじめ、対策本部を中心に公の備えを確認しております。このことに関連して、避難所になる学校体育館の空調設備、エアコンの整備事業が進んでおります。昨年度の全中学校、高等学校等に続いて、今年度は約50校の全小学校等に設置される予定で工事が進められています。施設整備室をはじめ関係の事業者の方々に心から感謝いたします。暑い中本当にありがとうございます。

本日は、3点報告等をさせていただきます。1点目は、中核市教育長会の国への要望です。8月2日に中核市の代表として、文部科学省の幹部を訪問し、直接要望書を手交し、要望してまいりました。文部科学省においては、教育課題の改善のために、中央教育審議会からのご提言を踏まえ、関係各省と粘り強く交渉しておられるとのことでした。特に、来年度予算の獲得に関して、小学校の教科担任制の拡大、中学校の生徒指導主事の増員、教職調整手当の引き上げなどを重点的に交渉しているとのことでした。

2点目は、大阪府都市教育長協議会の報告です。8月16日の定例会では、大阪府教育庁から種々ご連絡がありました。「全国学力調査については、大阪府はほぼ全国平均と同様の傾向を示しており、課題についても同様であった。」と報告されました。小学校対象の大阪府のテストであるすくすくウォッチについては、興味・関心のある事柄について意欲的に工夫して相手に伝える力が育っているほか、アンケート調査も概ねよい傾向が伸びているとのことでした。しかし、テレビや新聞でニュースを見ている割合が減少しており、

本を全く読まない児童が増えているとのことで、学校においても、子どもの読書の機会が減っており、教員も本を読まない傾向が進んでいるとのことです。長い文章を読む力の育成が必要と言われていました。万博への児童生徒の招致事業について、大阪府教育庁においては、国土交通省、鉄道会社、バス会社などを構成員に加えた輸送検討会を開催し、来場の方法や混雑状況、子ども専用車両の検討、他府県参加者の情報収集など、精力的に準備を進められています。高校改革については公立高校離れが顕著になる中、審議会答申がほぼ固まり、5点にわたる改善提案について説明がありました。アドミッションポリシー選抜枠の設定、特別選抜一般選抜の一本化など、入試選抜の時期を早める内容も含まれています。これには複数の教育長から反対の意見が出され、最終的なスケジュールや実施時期の明示と、決定前の教育長協議会への事前説明の要請があり、府教育庁側も了承されていました。また教員採用試験日程のさらなる前倒し、特別支援学級の編成方法の変更についての計画の説明がありました。なお、国と大阪府への要望書が最終確定いたしましたので、今後代表役員が直接交渉に臨む予定でございます。大阪府へは私も参加いたします。

3点目は、7月30・31日に行われた夏休み英語村です。義務教育学校を含む小学校6年生と中学生の希望者を対象に、ユトリート東大阪で開催されました。私も、小学生の回に行きました。英語村では、子どもたちにパスポートを発行し、5つの国をめぐるストーリーで楽しく、ALTと交流し、探究的な学びを行っていました。子どもたちは単なる英語の習得以上の宝物をたくさん得たものと思います。楽しく素晴らしいイベントでした。

最後に、今の社会は、常に何らかの危機による漠然とした不安を抱えながら進んでいるように感じております。昨今、危機の常態化という言葉も聞かれます。教育問題でも、児童生徒の学ぶ権利の保障や、教師不足の問題など、危機的な状況がなお続いています、危機であることが当たり前になっては決していけないと思います。諦めずに私たち一人ひとりが状況を直視しつつも、しなやかに困難を乗り越えて回復していく力、レジリエンスを高め、逆境に負けないことを求められていると思っております。私から以上です。

それでは、これより会議を進めさせていただきます。

本日の会議でございますが、「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について」を

ご報告させていただきます。それでは、報告をお願いします。

#### 【吉本学校教育推進室参事】

令和6年4月18日に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された令和6年度全国学力学習状況調査の結果について報告いたします。調査内容については、小学校6年生は国語・算数、中学校3年生は国語・数学で、小中学校共通で学習意欲や生活諸側面等に関する質問紙調査を行っております。

はじめに、教科について、市全体の結果で見ますと、平均正答率においてはいずれの教科も全国平均には届きませんでした。中学校数学の平均正答率の対全国比については、昨年度から僅かに改善が見られました。いずれの教科にも共通する課題としましては、文章等によって自分の考えを表現する力、図や表など様々な情報から必要な情報を読み取る力、得た情報を多面的・多角的に考察する力が挙げられます。

次に、児童生徒質問紙につきましては、小中学校ともに、質問項目「自分にはよいところがある」・「将来の夢や目標を持っている」・「地域や社会を良くするために何かをしてみたい」に対する肯定的回答率は、昨年度よりも増加しております。また、質問項目「先生は、自分の良いところ認めてくれている。」の肯定的回答率も昨年度より増加しており、小中学校ともに全国平均を上回っております。さらに、パソコンやタブレット等のICT機器の授業での使用頻度は、依然として全国に比べて活用が進んでおります。一方で、SNSや動画視聴・ゲーム等に費やす時間が長く、家庭学習の時間が比較的少ない傾向が見られることから、子どもたちの家庭での時間の使い方については課題がみられました。教科及び児童生徒質問紙調査の結果から、今後は、知的好奇心やワクワク感、探究心を持ち続けるための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、1人1台端末やAIドリル等を効果的に活用しながら、教師主導の授業から子ども主体の授業への転換を引き続き推進していきたいと考えております。また、すべての子どもたちが誰1人取り残されない「個別最適な学び」と、子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、学びの基盤となる言語能力や情報活用等の向上を目指してまい

ります。なお、今年度の各学年・各教科の本市と全国の平均正答率については、資料に記載しているとおりでございます。

次に、小学校国語の結果をご覧ください。問題数 14 に対し、本市の平均正答数は 8.8 問でした。正答数の分布は棒グラフのとおり、11 問をピークとする右寄りの山型です。折れ線が全国の数値ですが、10 問以上割合が、全国と比べると低い結果でした。

次に、小学校算数では、問題数 16 に対し、本市の平均正答数は 9.3 問でした。正答数の分布は、12 問をピークとする右寄りの山型で、11 問以上の割合が、全国と比べると低い結果でした。

次に、中学校国語では、問題数 15 に対して、本市の平均正答数は 8.0 問でした。正答数の分布は、9 問をピークとする右寄りの山型で、11 問以上の割合が、全国に比べると低い結果でした。

次に、中学校数学では、問題数 16 に対し、本市の平均正答数は 7.3 問でした。正答数の分布は、全国と同じく左寄りの山型で、8 問以上の割合が、全国と比べると低い結果でした。4 つの正答数に関するグラフを見ていただきましたが、中間層の割合は、全国と比べると変わらない中で、正答率が高い子どもの割合が少ない結果となっております。

続いて、児童生徒質問紙調査の自己有用感に関する項目のページをご覧ください。こちらは、児童生徒質問紙調査の抜粋を掲載しております。先ほどの概要で、「自分にはよいところがある」・「先生は自分の良いところを認めてくれている」・「将来の夢や目標を持っている」・「地域や社会を良くするために何かをしてみたい」に対する肯定的回答率が昨年度にも増加したとお伝えしましたが、このページでは、それらが読み取れるアンケート結果のグラフを掲載しております。例えば、一番上の「自分にはよいところはありませんか」という項目では、3 つのグラフを載せていますが、下から令和 4 年・5 年・6 年の数値で、左側に寄るほど肯定的な回答をしているという割合となっておりますので、年々増加しているという傾向が見られるかと思えます。また、次の児童生徒質問紙調査の ICT 機器の活用・家庭学習習慣に関するページを見ていただくと、先ほどお伝えした SNS や動画視聴に費やす時間の長さ、家庭学習の少ない傾向が読み取れるアンケート結果を掲載し

ております。報告は以上でございます。

**【古川教育長】**

それでは、ただいまの報告について、何か御質問、御意見等がございますか。

**【田中委員】**

この結果については、毎年同じような形といいますか、その度に、同じ発言をしているなどと思いますが、教育委員会としては、例えば、国語の点数をこれだけ上げようとしている、こういう観点に関する力をつけるために努力している、または先生方にこんなことを促しているなどの具体的な取組はされていますか。例えば、東大阪市では、夏休み中の宿題を見ようというイベントもされていて、イベントの数としては、他市に比べて取り組んでいるかなという自負はありますが、点数の結果がやはり著しく良くなって、事務局や先生方としても、その点をどう捉えているのか、何らかの具体的な取組としているのかという点はいかがでしょうか。

**【吉本学校教育推進室参事】**

全国学力学習状況調査自体が、実施要綱にも記載されているとおり、学力の側面を図るものという点で、この結果がすべてではないという捉えではありますが、一方で、こちらの数値も大事なことであると認識しています。私たちは日々、学校に対してアプローチしていく中で、これから困難な時代を生きていく子どもたちが、自ら課題を設定して、その課題に対して解決できるような力をつけていくことを目指して、主に先ほどお伝えした授業改善に取り組んでいます。教師主導の授業ではなくて、子どもたちが主体となる授業の転換に向けて、取組を進めているところでございます。子ども主体の授業への転換ということで、各学校に位置付けている学力向上を担当する学力向上支援コーディネーターの連絡協議会等を通じた発信や、学校全体への周知や学力向上支援コーディネーター中心にアプローチをかけていくことなど、単発の何かに取り組むということではなく、日々のペー

スとなる授業の改善に力を入れております。

**【田中教育委員】**

教育委員会として、他市に先んじて、iPad や AI ドリルを導入するなど、お金をかけて取り組んでいて、それらの取組は良いとは思いますが、まだ少し結果が伴っていないというか、結果があまり出ていないと指摘された時に、私たち教育委員会としては、「いや、実はこんなことを取り組んでいます。」とすることができるようなものをある程度用意しておかないと、広く取組を行っているということは、どの他市も同じである話なので、東大阪市としてこんなことに取り組んでいますということがもう少しあれば良いかなと思います。

**【吉本学校教育推進室参事】**

御意見に対して、まさしくこれですと言い切れない部分はあるかもしれませんが、AI ドリルは、我々の中では大きな役割を担っているかと思います。AI ドリルの活用については、導入して3年目になる中で、活用実績の分析を通じて AI ドリルを使えば使うほど効果はあるという検証は出ていますので、引き続き取り組んでいきたいと思っています。その点は、先ほどお伝えした授業改善の中に、AI ドリルの活用を絡めながら進めていきたいと思っています。

**【堤教育委員】**

大変な分析を正確に行ってくださいありがとうございます。国が行うこの調査において、こういう項目を調査しますということは、国としてこの調査で測られる力をつけるべきだということだと思っています。こういう調査で測られる力を付けましょうということで本調査をされるということだと思っています。この調査を実際に受ける受験者は、毎年変わる中で、その受検者である子どもたちに対して、校長先生や各先生が責任を持って、指導されている状況のもとで、自分たちの学校の子どもたちは、どういう調査を受けるのか、

どういふところが弱いのか、どういふ状況になっているのかを分析され、それらに対して、プラスになるように努力をされて、計画も立てられていると思います。その点については、今回の数値は市全体の大きな数値ですので、私たちには分からないかと思ひます。この調査を受ける子どもに対して、今年はどうなことを目標にしているのか、さらに対象の子どもだけではなく、各学年において、どういふ方向性で、どのように計画を立てて力をつけていくのかという実践がどう行われていくのかが分からないので、そういうことを事務局からご指導いただひて、それをこの教育委員会議でご報告いただくことで、市民の皆様が、その状況をお知りになるということですので、そのようにお願いできないかと思ひます。また田中委員からもありましたが、別に責めているわけではありませんが、キュビナ（Qubena：AIドリルの名称）の議論についても、教育委員会で、直接的には議論されていなかったのかなと思ひますので、今後検討していただひて、プロセスや経過をお示しいただければと思ひます。また、中学数学の正答率について、全国が52.5%、東大阪市が46.0%で、小学校算数についても、全国は63.1%で、東大阪市が58.0%ということで、数値の差に少し開きがあると思ひます。やはりキュビナをどのような目的で、どのように活用していくか、この調査にしても、どういふ点を伸ばしていけるのかということも、またもう一度皆で検討していただけたらと思ひます。

**【秦教育長職務代理者】**

田中委員と堤委員がおっしゃられた点と少し関連しますが、私も気になったのは、中学校数学の正答率で、どうしても思考・判断・表現は、全国と比べても、やはり少し落ちているなあという印象があり、正答率が低いと分かっているところだけを、ピンポイントで強化するようなことはできないものかなとは思ひますが、それは難しいものではないでしょうか。

**【吉本学校教育推進室参事】**

思考・判断・表現に特化するという観点でございますが、思考、判断あるいは表現するために、それらのベースや引き出しとなる知識等・技能が必要になるかと思ひます。今ま

では、どちらかというとも基礎を固めて、それから思考・判断・表現に移っていくという流れがございましたので、こういう結果になったかと思いますが、結局これらは相互に関連し合うものかと思っており、思考・判断・表現していくには、知識・技能が必要だなという意識を、子どもたちに感じてもらう必要があるかと思えます。知識・技能が、まだ不十分であるため、思考・判断・表現ができないというわけではなくて、相互に関連し合っているものだという点を意識しながら進めていく授業展開が必要かと考えております。

**【古川教育長】**

堤教育委員の質問への回答をお願いいたします。

**【吉本学校教育推進室参事】**

堤委員がおっしゃられるとおり、我々が報告しているものは、あくまでも市全体の結果ということで、この結果が、各学校の結果に当てはまっているのかというと、そうではございません。各学校においては、市と同じ課題を抱えているところもあれば、違うところもございます。我々からは、市全体としての結果を受けて、各校でも分析をしていただき、それを踏まえた対応・改善を図ってくださいというメッセージを学校へおろしてまいります。

**【山中教育委員】**

他の委員の質問に関連しますが、結果は結果として受けとめて、その中で数値を上げるための努力の一案としては、例えば、キュビナの活用に関するお話がありましたけれども、その点について、活用実績といいますか、目標値みたいなものはありますか。数値が上がっているのは分かりますが、この活用が上がれば、必ず結果も上がっていくという関連があるということで、その可能性があるということですよね。

**【吉本学校教育推進室参事】**

本市独自で、小学校3年生から6年生を対象とした標準学力調査を行っている中で、そ

の同一児童において、キュビナの活用度に関して標準学力調査の変化を分析したときに、やはり活用すればするほど数値の向上がみられるという実証がございます。また、具体的にどういう数値を設定しているかという点については、現在手持ちに資料がございませんのでお答えできませんが、1ヶ月における1人あたりの解答数の目標値は、設定しております。その数値を目指しながら活用を進めているところでございます。

**【山中教育委員】**

他市でも、このAIドリルを活用しているかと思いますが、いわゆるベンチマーキングといえますか、先ほど何問回答しますという話がありましたが、例えば、他市の情報では、これくらい回答すれば、これくらい学力が上がるというようなベンチマーキングみたいなことは取り組まれていますか。

**【吉本学校教育推進室参事】**

キュビナが他市でどれくらい活用されているのかという点については、導入されている市がそこまで多くはありませんが、他市の活用実績や、どういう目標設定をしているのか、そういう点については、まだ掴み切れていない状況です。

**【堤教育委員】**

今、吉本室参事からの確にお答えいただいているのですが、私たちも来月の委員会で、やはり質問等をはっきりとさせて、事務局からお答えをいただきながら議論をするという形で、教育長にはぜひお願いしたいと思います。

**【古川教育長】**

継続的に議論したいということですか。

【堤委員】

はい。学力問題と申しますか、学力調査を柱にした学力向上について議論させていただけるようにシチュエーションを作っていたらと思います。よろしくお願いします。

【古川教育長】

定例会あるいは懇談会で議論するのかについては、事務局と話し合いますが、いずれにしても、今後改善に向けての何らかの努力が必要ですので、今のご意見を踏まえて検討させていただきます。

なお、私の感想ですけれども、AIドリルは基本的に、子どもの学力進度に応じた学びができるという個別最適な学びが非常に使いやすいツールであると思っておりますので、まだ導入して3年目ですが、やはり学校数・教員数も多いので、たくさんの先生が現在取り組んでいて、活用がさらに進んでいる状況だと思います。教育の結果はすぐ現れると良いのですが、新しいチャレンジの結果については、慎重に取り組んでいく面も併せて必要かと考えております。他に御意見・御質問はございますか。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

それでは最後に、その他教育委員の皆様から何か御意見、御質問等ございますか。

【各委員】

(特になし)

【古川教育長】

それでは、本日の会議はこの程度でとどめたいと存じますが、御異議ございますか。

【各委員】

(異議なしの声あり)

【古川教育長】

御異議なしと認めます。

それでは次回の教育委員会議の日程を事務局よりお願いします。

【事務局】

次回の教育委員会議につきましては、令和7年度使用東大阪市立中学校教科用図書の採択を行う臨時会を令和6年8月26日(月)午後2時より開会する予定としております。なお、9月の定例会につきましては、令和6年9月24日(火)午後2時より開会する予定としております

【古川教育長】

それでは、これをもちまして、東大阪市教育委員会令和6年8月定例会を閉会いたします。委員の皆様方、また、御出席の皆様、大変お疲れ様でした。

会議録署名委員

東大阪市教育委員会教育長	古川 聖登
東大阪市教育委員会教育委員	田中 宏一